

“着”の「線状視点」に関する検証

—動詞との共起関係からの分析—

The characteristics of the Chinese particle *Zhe*
as a “Linear viewpoint” marker: An examination through verb classification

鄭 瓊 花

ZHENG Qionghua

First of all, this paper proposes a hypothesis that the Chinese particle *Zhe* is characterized as a “linear viewpoint” marker. This paper then examines the characteristics of *Zhe*, using the Chinese verb classification by Sun (2006). We investigate the cooccurrence of *Zhe* and verbs from each type, and analyze the temporal property of action. As a result, *Zhe* can cooccur with verbs that have a linear process in the temporal property. Consequently, it is proved that the Chinese particle *Zhe* functions as a “linear viewpoint” marker.

キーワード： “着”、動詞分類、線状視点

Keywords: The Chinese particle *Zhe*, Verb classification, Linear viewpoint

0. はじめに

本稿は中国語のアスペクトマーカ―“着”を研究対象として、“着”と動詞との共起関係から“着”の本質を明らかにする。アスペクトに関して、劉綺紋(2006: 1)は、アスペクトは事態の内在な時間展開の様相に対して、発話者がどのような視点から捉えるかを表す文法カテゴリーであると指摘している。“着”、“了”のようなアスペクトマーカ―は認知主体がスキヤニングの認知プロセス¹を行う際、認知視点を与える機能を果たしていると考えられる。

“着”の認知視点としての特徴に関して、王力(1980)は“了”は時点を表し、“着”は時線を表すと触れている。朱繼征(2000)は“動相”を「点」または「線」の形で捉え直すことが可能であり、「進行相」、「持続相」、「残存相」を「線」の形で表すことができると指摘している。また、朱繼征(2000)は“着”が「進行相」、「持続相」、「残存相」のマーカ―として扱っ

¹ 場所・空間認知に関わるスキヤニングのプロセスは、厳密には、認知主体による<視線の投影>のプロセスと<視線の移動>のプロセスの統合された複合的な認知プロセスである。状況によっては、視線だけではなく、知覚対象そのものが移動している状況が考えられる。(山梨正明 2000: 59-60)

ている。つまり、朱繼征(2000)における“着”は「線」の形で捉えることができると考えられる。本稿は王力(1980)、朱繼征(2000)と劉綺紋(2006)に従い、下記のような仮説を提出する。

- (1) “着”が認知視点として「線状」の特徴をもつ、つまり、“着”が「線状視点」である。

王学群(2007)は“V 着”によるいくつかのアスペクトの意味は“着”によって決められるものではなく、動詞の語彙的意味(動詞に内在するカテゴリーカルな意味)に深く関わるものであると説明している。陳平(1988)は動詞の重要な機能としては、その語彙的な意味性質が文の事象タイプを決めるとき、複数の可能性を与え、ほかの文の成分は、動詞が提供した事象タイプの複数の可能性の中から選択し、実際の文の事象タイプを具体的に決める役割を果たしていると指摘している。つまり、動詞の語彙的意味は“V 着”に深く関わり、認知主体が“着”の「線状視点」からスキミングの認知プロセスで事態を捉えるには、複数の可能性を与える。“着”を研究する際には、その前に置かれている動詞を考察しなければならないということである。

確かに、“穿(着る)”のような動詞が“着”と共起する場合、認知主体が“着”の視点から事態を捉えるには、複数の可能性²を与えることができる。しかしながら、下記の例文が示すように、すべての動詞が表す局面を“着”という視点から捉えられるわけではない。

- (2) a.*³你是属于着我的。

b. 你是属于我的。⁴

(お前はぼくのものだ。)

- (3) a.*³你知道着他，是吗？

b. 你知道他，是吗？

(彼のこと知っているのよね。)

² “穿”グループの“V 着”は結果の継続と動作の継続を表す。動作の継続より結果の継続のほうがよく使用されている。(王学群 2007: 20-21)

³ * : 当該の文が非文であることを示す。? : 当該の文が不自然であることを示す。

⁴ 例文・訳文・図表については、特別な説明やページ数の表示がない限り、筆者によるものである。

- (4) a.*我找到着钱包了。
 b. 我找到钱包了。
 (財布が見つかった。)

例文(2)～(4)が示すように、動詞“属于(属する)”、“知道(分かる)”、“找到(見つける)”のような動詞は“着”と共起できない。では、“着”と共起できる動詞はどのような特徴を持つのであろうか。本稿では動詞の語彙的意味を考察し、中国語の動詞分類を参考することによって、“着”と共起できる動詞の内部過程の特徴から“着”の「線状視点」を検証する。

1. 先行研究と問題点

これまでの先行研究は主に三つの立場から動詞の種類と“着”の関係を考察した。①“着”と共起できる動詞のみを考察した研究である(平山久雄(1959)、荒川清秀(2015))。②“着”と共起できるかどうかを基準として動詞を分類する研究である(馬慶株(1981)、張文青(2013))。③ほかの基準で動詞を分類してから、“着”との共起関係を考察する研究である(郭銳(1993)、孫英傑(2006))。

1.1. “着”と共起できる動詞のみを考察した研究

平山久雄(1959)は“着”をとることのできる動詞をA類・B類・C類という三類に分けている。A類は、「その動詞の表す動作の継続進行だけが示されるもの」、B類は、「その動詞の表す動作の結果として生ずる状態だけが示されるもの」、C類は、「動作の継続進行、状態の持続のどちらも示されるもの」である。

A類: 谈(話す)、刮(削り取る)、脱(脱ぐ)、解(解く)、洗(洗う)

B類: 留(残す)、落(落ちる)、长(生える)、裂(裂ける)、破(敗れる)

C類: 贴(貼る)、挂(掛ける)、穿(着る)、系(結ぶ)、摆(並べる)、涂(塗る)

荒川清秀(2015)は“着”と動詞との結合度によって動作動詞を下記のようにa類からe類まで五つに分類している。

- a. 站(立つ)、坐(座る)、躺(横になる)、蹲(しゃがみこむ)
 趴(うつ伏せになる)、挂₂(掛けてある)、摆₂(並べてある)
 开₂(あけておく)、放₂(置いてある)

- b. 穿₂(着ている)、拿₂(もっている)、戴₂(掛けてある)、提₂(引き上げる)、端₂(ささげもつ)
背₂(背負っている)、帯₂(もっている)
- c. 歇(一休みする)、待(とどまる)、跟(ついていく)、守(見守る)
活(生きている)
- d. 等(待つ)、听(聞く)、看(見張る)(kan)、盯(じっと見る)
睡(覚)(寝る)、躲(隠れる)、陪(付き添う)、养(病)(休養する)
想(考える)
- e. 干(する)、穿₁(着る)、挂₁(掛ける)

平山久雄(1959)と荒川清秀(2015)は“着”と共起できる動詞の一部分を分類したが、触れた動詞の大部分が動作動詞である。ほかの種類動詞はあまりふれていないようである。また、荒川清秀(2015)は e 類の“干(する)”、“穿₁(着る)”が“着”と共起して不自然な文になると指摘したが、ccl で調べてみると、下記の例文(5)のような“干着”の例文は 493 例見つけた。また、“穿₁”に関しては、例文(6)のように、“在镜子前(鏡の前で)”と“不停的(止まらずに)”のような要素がある場合、“穿₁”は“着”と共起できる。この場合、“穿₁”が表す「動詞の変化にいたる過程の局面」が“着”という「認知視点」から捉えられると考えることができる。

- (5) 他们埋头干着自己的事情，眼光很少投向别处。(ccl)
(彼らは自分のことに夢中で、ほかのところをあまり見ていない。)
- (6) 山本在镜子前不停的穿着刚买回来的衣服。
(山本さんは鏡の前で買ってきたばかりの服を止まらずに着てみている。)

荒川清秀(2015)は“穿”を動詞の変化にいたる過程の局面を表す“穿₁”と着テイル状態を維持する動作の局面を表す“穿₂”にわけている。本稿では“穿(着る)”を“穿₁”、“穿₂”に分けず、ただ一つの“穿(着る)”と考える。その“穿(着る)”の語彙的な意味を「衣服や靴などを体に着用する」という動詞の変化にいたる過程のみと考える。着テイル状態を維持する動作の局面は“穿(着る)”が表す動作が終わった結果と解釈する。

また、“干(する)”、“穿₁(着る)”に代表される e 類はどのような特徴を持っているのか。一般的な動作動詞と見なすなら、“吃(食べる)”のような動作動詞とどのような違いがあるのか。つまり、荒川清秀(2015)の分類に関して、特に e 類の動詞に関して再考する必要があると考えられる。

1.2. “着” と共起できるかどうかを基準として動詞を分類する研究

平山久雄(1959)と荒川清秀(2015)は“着”と共起できる動詞のみを考察してから分類したが、馬慶株(1981)と張文青(2013)は“着”と共起できるかどうかを基準として動詞を分類した。

馬慶株(1981)は“着”との共起可能性により、中国語の動詞を「非継続動詞(Va)」と「継続動詞(Vb)」のまず二つに分類し、そして、統語パターン(V+(了)+T+了 例：看(了)三天了。(三日見続けた(見てから三日経過した))における後置時間詞(post-verbal time phrase)が、動作の継続時間のみを指すのか、それとも動作の継続時間に加え、動作完了後の経過時間も指すことができるのかによって、継続動詞を「強い継続動詞(Vb1)」と「弱い継続動詞(Vb2)」に分類している。さらに、統語パターン(V+T 例：看三天。(三日見続けた))において、時間補語が動作の継続時間を指すのか、それとも、動作の継続時間と動作による結果状態の残留時間の両方を指すことができるかにより、「看”タイプ(Vb21)」と「挂”タイプ(Vb22)」に分けている。具体的には次の図のように分類される。

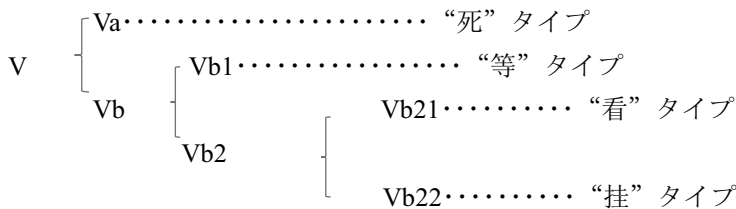


図 1 馬慶株(1981)による動詞分類 (馬慶株 1981:9)

また、上の分類を[±持続](durative)、[±完了](telic)、[±状態](static)という三つの意味特徴を用いて次のように表現できるとしている。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| Va [+完了]、[-継続] | Vb1 [-完了]、[+継続] |
| Vb21 [+完了]、[+継続]、[-状態] | Vb22 [+完了]、[+継続]、[+状態] |

馬慶株(1981)は“死”タイプ(“死(死ぬ)”、“熄(消える)”…)は“着”と共起できないため、「非継続動詞(Va)」に分類している。しかし、実際の用例コーパスには下記のような例文が存在している。

- (7) 在老街一社区办事处门口，死着三个人，一名妇女，两名男子。⁵
 (古い町の団地事務所の前で、三人が死んでいる。女一人、男二人。)

⁵ 中国のウェイボーで調べた結果、(7)のような“死着”の存在文が 20 例ほど見つかった。

- (8) 桌子底下死着一只老鼠。
(机の下でネズミが死んでいる。)
- (9) 可是教室里静悄悄的，熄着灯。(ccl)
(しかし教室の中は静かで、電気も消えている。)
- (10) 家家都黑糊糊地熄着灯，也没有一个人来迎接。(ccl)
(みんなの家の電気も消えていて、真っ暗で、迎えに来てくれる人もいない。)

馬慶株(1981)によれば、“死(死ぬ)”、“熄(消える)”は“着”と共起できない。しかしながら、例文(7)~(10)が示すように、“死(死ぬ)”、“熄(消える)”のような動詞が“着”と共起できている。馬慶株(1981)と同様、張文青(2013)も動詞と“着”との相性を分析して、下記のように整理している。

[表 1] 張文青(2013)による動詞分類

第一類：瞬間動詞、(-持続)、“着”が用いられない	死(死ぬ) ⁶ 、倒(倒れる)、扔(投げつける)、断(切れる)、熄(消える)、来(来る)、开始(始まる)、毕业(卒業する)、结婚(結婚する)
第二類：属性や関係を表す動詞、(+持続)、“着”が用いられない	属于(属する)、等于(等しい)、是(である)、姓(を姓とする)、符合(合う)、作为(とする)、服从(従う)
第三類：心理状態或いは生理状態、認知を表す動詞、(+持続)、“着”が用いられない	喜欢(好きだ)、讨厌(嫌いだ)、高兴(嬉しい)、知道(わかる)、明白(了解する)、懂得(理解する)
第四類：瞬間動詞、持続性動詞。(±持続)、“着”が用いられる	看(見る)、听(聞く)、说(話す)、想(考える)、走(歩く)、吃(食べる)、写(書く)、商量(相談する)
第五類：持続時間が比較的長い、持続性が強い、(+持続)、“着”がよく用いられる	坐(座る)、躺(横になる)、趴(うつ伏せになる)、放(置く)、挂(かける)、钉(打ち込む)、搁(置く)、盖(かぶせる)、插(挿す)
第六類：持続性がかなり強い、(+ +持続)、常に“着”を用いる	向(向かう)、对(向かう)、朝(向く)、随(につれて)、意味(意味する)

(張文青 2013: 114)

⁶ 本稿における中国語の動詞の訳は筆者によるものである。

張文青(2013)の分類については下記の問題点がある。まず、張文青(2013)の分類の基準ははっきり書かれていない。瞬間動詞と持続性動詞を判断する基準が不明である。特に、第四類の動詞が「瞬間動詞、持続性動詞」と分類されているが、瞬間動詞と持続性動詞はもともと違う種類の動詞であり、“看(見る)”、“听(聞く)”、“说(話す)”のような動詞を瞬間動詞に分類することには再考の余地があると考えられる。また、“着”が用いられない第一類、第二類、第三類のうち、“死(死ぬ)”、“倒(倒れる)”、“符合(合う)”、“喜欢(好きだ)”、“扔(投げつける)”のような動詞と“着”とが共起できる例文が、(11)~(15)が示すように存在しているのも事実である。

- (11) 在老街一社区办事处门口，死着三个人，一名妇女，两名男子。 (= (7))
(古い町の団地事務所の前で、三人が死んでいる。女一人、男二人。)
- (12) 小侯返身回营时，看见皑皑白雪堆里倒着一位年逾 8 旬的老人。(ccl)
(候ちゃんがキャンプ地に戻った時、八十代の老人が真っ白な雪だまりの中に倒れているのが見えた。)
- (13) 它是时代精神的折射并且符合着时代历史的要求。(ccl)
(それは時代の精神を反映しており、時代と歴史の要求に合っている。)
- (14) 叶雪清学的是西医，却深深地喜欢着中医。(ccl)
(葉雪清は西洋医学を習ったが、漢方医学のほうが好きだ。)
- (15) 地上扔着一双鞋。 (郭銳 1993: 412)
(床に一足の靴が捨てられている。)

以上の分析からわかるように、馬慶株(1981)、張文青(2013)のように“着”と動詞との共起関係を基準に中国語の動詞を分類することは、“着”と動詞の特徴を見る上で価値があると考えられる。しかし、馬慶株(1981)、張文青(2013)では“着”と共起できない種類に分類されている動詞であっても、“着”と共起する例文もよく存在している。そのため、本稿は“着”と動詞との共起関係を基準として中国語の動詞を分類する方法を用いないこととする。

1.3. ほかの基準で動詞を分類してから、“着”との共起関係を考察する研究

これまでの動詞分類に関する研究では、馬慶株(1981)、張文青(2013)のように、動詞が“着”との共起関係を基準とする分類以外に、多くの研究者がほかのさまざまな方法と基準で動詞の分類を試みてきた。

Vendler(1967)は、「What happened?」、「be-ing」、「in an hour」、「for an hour」のようなテスト基準を用いて、時間的な継続(temporal duration)、時間的な終点(temporal termination)、および内的な時間構造(internal temporal structure)などの時間的な属性により、英語の動詞をSTATE (状態)、ACTIVITY (活動)、ACCOMPLISHMENT (達成)、ACHIEVEMENT (到達)の四つのタイプに分類している。

実際のところ、Vendler(1967)の四分類からもわかるように、動詞の四分類と呼ばれるものは、動詞のみならず、「draw a circle」や「push a cart to the supermarket」のように、前置詞句または目的語と動詞から組み合わせる動詞句も考慮に入れているのである。この点に関して、左思民(2004)は、Vendler(1967)の四分類は動詞本体の特徴だけではなく、命題のほかの部分も触れて分類していると述べている。特に、動詞に緊密に関わる補語と目的語の違いによって、到達タイプと活動タイプが異なってくる。本稿で中国語の動詞本体の特徴を考察対象としている。中国語の動詞本体の特徴を考察し分類する研究も多くある。その中で、本稿は郭銳(1993)、孫英傑(2006)を挙げている。

郭銳(1993)は六つの基準で動詞の内部過程の三つの要素(始点 inception、終点 finish、存続 duration)の有無を判断して動詞を五種類(無限構造動詞、前限構造動詞、双限構造動詞、後限構造動詞、点構造動詞)にわけている。また、動詞の内部過程の三つの要素(始点、終点、存続)の強弱によって五種類の動詞を十種類に分けている。

孫英傑(2006)は郭銳(1993)の分類を参考として動詞を状態動詞、活動動詞、結果動詞、完成動詞に分けている。状態動詞、活動動詞、結果動詞は動詞の基本的な種類と見なし、完成動詞は複合動詞と見なしている。また、動詞の意味特徴に[動態]と[結果]を含めているかどうかを基準として基本的な三種類を区別している。

[表2] 孫英傑(2006)による動詞分類

動詞分類	[+/- 動態]	[+/- 結果]	例
状態動詞	[-動態]	[-結果]	等于(等しい)、称(呼ぶ)、爱(愛する)、相信(信じる)、认为(と思う)、“严肃(厳しい)”、“擅长(上手)”
活動動詞	[+動態]	[-結果]	吃(食べる)、说(言う)、写(書く)、画(描く)、敲(叩く)、思考(考える)、
結果動詞	[+動態]	[+結果]	死(死ぬ)、倒(倒れる)、丢(なくす)、赢(勝つ)、毕业(卒業する)
完成動詞	“V+結果補語”		打败(負かす)、打死(打ち殺す)、抓住(捕まえる)、吃掉(食べてしまう)、猜中(当てる)
	“V+方向補語”		请来(誘ってきてもらう)、拖下去(引っ張っていく)、带过来(連れてくる)
	“V+到”		看到(見える)
	“V+往/中/掉”		抓住(捕まえる)、吃掉(食べてしまう)、猜中(当てる)

(孫英傑 2006: 43-68)

孫英傑(2006)ははっきりしている基準で全体的に中国語の動詞を分類している。本稿は主に孫英傑(2006)の動詞分類に従い、各種の動詞を考察する。

2. 各種の動詞の内部過程と“着”との共起関係

本節では、孫英傑(2006)により分類された状態動詞、活動動詞、結果動詞と完成動詞の語彙的意味を考察し、コーパスを利用し、それぞれの動詞と“着”との共起関係を分析することによって、動詞の内部過程を捉えられる局面を明らかにする。そして、各種の動詞と“着”との共起関係と内部過程の特徴から“着”の「線状視点」を検証する。

2.1. 状態動詞

孫英傑(2006)では、状態動詞は“爱(愛する)”、“相信(信じる)”のように、変化がなく、穏やかで持続的な状態を表す静態状態動詞を示す。それは“丢(なくなる)”、“忘(忘れる)”、“赢(勝つ)”、“毕业(卒業する)”のような状態の変化が含意される動態状態動詞と区別される。孫英傑(2006)は“丢(なくなる)”、“忘(忘れる)”、“赢(勝つ)”、“毕业(卒業する)”のように、状態の変化があって、ある結果(状態の変化または位置の変化)が出ることを表す動態状態動詞を結果動詞に分類している。

また、孫英傑(2006)は意味特徴の「±動態」で状態動詞と活動動詞を区別している。(16)が示すように、活動動詞は「動態」の意味特徴を含意するので、進行相のマーカ―“正在”と共起できる。(17)、(18)が示すように、状態動詞は「動態」の意味特徴を含意していないため、進行相のマーカ―“正在”と共起できない。

(16) 我正在写书，在书中反省我的前半生。

(私は今、本を書いている。本を書きながら私の前半生を省みている)

(17) *最使他高兴的是，人们正在尊重他的意见。

(18) *他正在坐。

確かに、この基準は“尊重(尊敬する)”、“坐(座る)”を状態動詞と判断するという点ではとても参考になる。

孫英傑(2006)は例文(19)の“犹豫”を状態動詞として扱っているが、ccl で調べた結果、例文(20)のように、“犹豫”が進行相のマーカ―“正在”と共起する例文が 61 例あった。

(19) 夏青犹豫着，嗫嚅着，迟迟不开口。孫英傑(2006: 47)

(夏青は迷って、言い渋って、なかなか口に出さない。)

(20) 老人正在犹豫去不去时，这个骗局被揭穿。(ccl)

(老人が行くかどうかと考えているうちに、この詐欺がばれた。)

(20)の訳文が示すように、ここの“犹豫”は「迷う」と訳すより、「考える」と訳したほうがふさわしいと考えられる。つまり、この例文の“犹豫”が表す意味は「迷う」という状態より、「考える」という思考的活動に近いと考えられる。その一方、下記の(21)では、“犹豫”を「迷う」という状態に訳したほうがふさわしいと考えられる。また、状態の程度を修飾する程度副詞“非常(非常に)”があることも、(21)の“犹豫”が思考的活動より状態と判断するための証拠であると考えられる。

(21) 余静赶到试验室，韩云程坐在那里，心里非常犹豫。(ccl)

(余静が実験室に着いた時、韓雲程が座っていて、非常に迷っていた。)

つまり、“猶豫”が表す意味は「考える」に近い思考動詞の面と「迷う」に近い状態動詞の二つの面がある。孫英傑(2006)に従えば、“猶豫”は活動動詞、状態動詞のどちらに分類されてもかまわないと考えられる。“猶豫”以外に、“想”が表す意味も「考える」の面と「会いたい」の面の二つの面がある。このため、本稿は“猶豫”と“想”を“猶豫₁(迷う)”、“猶豫₂(考える)”と“想₁(会いたい)”と“想₂(考える)”に分ける。孫英傑(2006)の研究を踏まえ、“猶豫₂(考える)”、“想₂(考える)”が“正在”と共起できるため、“思考(思考する)”、“考慮(考える)”、“反思(反省する)”と同様に活動動詞に分類する。さらに、“猶豫₁(迷う)”と“想₁(会いたい)”を“尊重(尊敬する)”、“坐(座る)”と同様に状態動詞に分類する。

また、孫英傑(2006)が言及した状態動詞に“大方(気前がいい)”、“充分(十分)”、“严肃(厳しい)”、“悠然(悠然)”、“擅长(上手)”、“善于(上手)”、“适合(ふさわしい)”、“雪白(雪のように白い)”のようなタイプがある。このタイプの状態動詞はものごとの性質や属性を表す。北京大学中国語言文学系現代漢語教研室(2004: 257)においては形容詞は性質或いは属性を表すと述べている。本稿はこのタイプの品詞を形容詞として扱い、状態動詞に分類しないこととする。

本節は上記の分析を踏まえ、孫英傑(2006)を参考にして、上記の状態動詞を下記のように分類する。また、分類した状態動詞をそれぞれ考察する。

状態動詞 1: 等于(等しい)、称(呼ぶ)、号称(誇称する)、姓(…を苗字とする)、像(似ている)、属于(属する)

状態動詞 2: 爱(愛する)、相信(信じる)、喜欢(好きだ)、高兴(嬉しい)、希望(希望する)、恨(うらむ)、悲伤(悲しむ)、尊重(尊重する)、感谢(感謝する)、失望(がっかりする)

状態動詞 3: 觉得(と思う)、认为(と思う)、以为(と思う)

状態動詞 4: 站(立つ)、坐(座る)、躺(横になる)、趴(うつ伏せになる)

状態動詞 1

孫英傑(2006)は意味上、状態動詞 1 が物事の関係を表すため、“是(である)”、“等于(等しい)”、“称(呼ぶ)”、“号称(誇称する)”、“姓(…を苗字とする)”、“像(似ている)”、“属于(属する)”のような動詞を関係動詞と呼んでいる。郭銳(1993)は、下記の(25)、(26)が示すように、状態動詞 1 が表す動作・作用は始点と終点を持っておらず、“了”、“着”“时量宾语(目的語としての時間量詞)”と共起できないため“無限構造動詞”に分類している。

(22) 我是(*着/*了)小郑。

(23) 我是小郑(*两年了(二年になった))。

鄧宇陽(2019)は“是(である)”、“像(似ている)”、“姓(…を苗字とする)”、“等于(等しい)”、“属于(属する)”のような動詞はある性質を描写する、或いは際立たせるため、アスペクトマーカと共起できないと指摘している。工藤真由美(2014: 46)に従えば、これらの動詞は「時間的限定性」⁷を持っていない動詞と考えられる。つまり、状態動詞1が表す局面は時間軸上に展開されず、捉えられないと考えられる。第一章で示したように、「アスペクト」とは事態の内部的な時間構造の捉え方(事態がどの段階に注目するか)に関わる文法カテゴリーである。アスペクトマーカの“着”は認知主体がスキミングの動的な認知プロセスを行う窓口の認知視点である。状態動詞1が表す局面は時間軸上に展開されないため、窓口の認知視点としての“着”から動詞が表す局面が捉えられないのは当然であると考えられる。状態動詞1が“着”と共起できないことも“着”の「窓口」(認知視点)の役割を証明していると考えられる。

状態動詞2

“爱(愛する)”に関して、沈家煊(1995)は趙元任(1979)における動作動詞と非動作動詞の分類を説明する際に、動作動詞は“吃着(食べている)”、“吃吃(ちょっと食べる)”のように、“着”を付加することができるが、非動作動詞は“爱着(愛している)”、“爱爱(ちょっと愛する)”のように一般に“着”を付加できないと述べている。また、郭銳(1993)は“相信(信じる)”、“喜欢(好きだ)”を“着”と共起できない「前限構造動詞」⁸に分類している。張文青(2013)は“喜欢(好きだ)”、“高兴(嬉しい)”、“相信(信じる)”のような動詞が“着”と共起できないと論述している。

しかしながら、cclで調べた結果、“爱着(愛している)”の例文が908例、“相信着”の例文が23例、“高兴着”の例文が15例見つかった。また、同じ種類の“想念着(懐かしんでいる)”を99例、“希望着(期待している)”を80例、“恨着(恨んでいる)”の例文を52例、“喜欢着(好き)”を15例、“悲伤着(悲しんでいる)”を6例、“尊重着(尊重している)”を3例、“感谢着(感謝している)”を24例、“失望着(失望している)”を4例発見した。つまり、状態動詞2は“着”と共起することが可能である。では、なぜ先行研究の論述と違う例が多く出たのであろうか。

⁷ 時間的限定性とは、すべての述語を捉えているカテゴリーで、偶発的(accidental)な一時的(temporary)な<現象>か、ポテンシャルな恒常的(permanent)な<本質>かのスケールの違いである。(工藤真由美:2014: 46)

⁸ 始点があり、終点がなく、持続性が弱い特徴を持つ動詞を前限構造動詞と呼ぶ。(郭銳 1993: 415)

沈家煊(1995)、郭銳(1993)、張文青(2013)の分類と異なり、王学群(2007)は状態動詞2が“着”と共起できることを認めている。王学群(2007)は状態動詞2を心理活動動詞と分類し、これらの動詞がゼロ形態の場合には、心的な態度の表明、感情的な表出を表すのに対して、“V着”の場合にはそのような心理活動を継続的なものとしてとらえると指摘している。王学群(2007)の論述は状態動詞2と“着”の共起関係を理解する上で参考になると考えられる。しかし、沈家煊(1995)、郭銳(1993)、張文青(2013)の論説と異なる理由に関して、王学群(2007)は言及していない。

意味的には、状態動詞2は主に認知主体の心理状態を表す。統語的には、例文(24)、(25)が示すように、これらの動詞は性質形容詞⁹に近く、“很(すごく)、“非常(非常に)”、“有点儿(ちょっと)”のような程度副詞に修飾される。そのため、これらの動詞を“静態動詞”と認識する先行研究もある(呉春相・余瑞雪(2008: 83-88)、劉月華(2001: 194)。鄧宇陽(2019: 42-54)はそのような動詞を形容的動詞と呼んでいる。劉月華(2001: 205)はこれらの動詞を形容詞と動詞両方の特徴を同時に持つ兼類語¹⁰と呼んでいる。

(24) 他非常爱她。

(彼は彼女のことを非常に愛している。)

(25) 他很尊重他的老师。

(彼はとても先生のことを尊敬している。)

つまり、中国語の状態動詞2は性質形容詞の特徴をもつ状態動詞である。本稿は鄧宇陽(2019: 42-54)の呼び方を参考に、これらの動詞を形容的動詞と呼ぶ。沈家煊(1995)、郭銳(1993)、張文青(2013)がこれらの動詞を“着”と共起できない動詞に分類した理由はこれらの動詞の形容的な特徴を見ていたためであると考えられる。

また、張文青(2013)は心理状態や生理状態を表す動詞は持続性を持つと指摘している。確かに、一般的に、これらの心理状態は瞬間的に変えられず、持続している状態と認知される。町田健(2004: 169)によれば、コトバには意味を伝達する機能があることを前提としながら、コトバを支配する原理として「経済性」¹¹がある。戴耀晶(1991: 97)によると、“V着”は持続性を持つ。しかしながら、“V着”を使わず、状態動詞2のゼロ形態だけでも、

⁹ 一般に、性質形容詞は程度副詞に修飾される。(劉月華 2001: 194)

¹⁰ しかるに具体的な語のいくつかについてみると、二種類もしくは二種類以上の品詞の文法的特徴を兼ね備えていることがあって、これを語の兼類現象と呼ぶ。たとえば、“革命”は形容詞〔革命的な〕と名詞〔革命〕の兼類語なのである。(北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 2004: 275)

¹¹ 経済性とは、コトバのしくみは人間ができるだけ労力を使わずに済むように、効率的に出来上がっているという性質のことを言う。(町田健 2004: 169)

持続している状態を表すことができる。そのため、“V着”ではなく、状態動詞2を使う場合、ゼロ形態が多く使われるわけである。つまり、沈家煊(1995)、郭銳(1993)、張文青(2013)はこれらの動詞を“着”と共起できない動詞に分類した理由にはコトバの経済性もあると考えられる。

また、“我爱你(私はあなたのことを愛している。)”、“我喜欢你(私はあなたのことが好きだ。)”のようなゼロ形態の場合、この態度や気持ちがいつまで持続できるかどうかに関しては関心を持たず、ただ単に主体が発話時点における態度と気持ちを相手に伝える。そのため、“V着”より、状態動詞2のゼロ形態のほうがより相応しいと考えられる。

では、cclで見つかった状態動詞2の“V着”の例はどのように理解すれば良いのであろう。まず例文を見てみよう。

状態動詞2は形容詞の特徴を持っているが、動詞として、時間の限定性も持っている。状態動詞2が表す状態が持続していることがわかるが、この状態がいつ始まったのか、いつ終わったのかを捉えることは難しい。そのため、時間軸上では状態動詞2が表す過程は始点と終点がない「線」と認識される。

アスペクトマーカの“着”は認知主体がスキニングの動的な認知プロセスを行う窓口の認知視点である。“V着”の例の存在は“着”という認知視点から状態動詞2の内部過程を捉えることができることを証明している。

また、状態動詞2の“V着”の例を考察した結果、例文(29)～(32)が示すように、状態動詞2の“V着”の前に、“深情地(感情深く)”、“死心塌地地(決心したらどんなことがあっても変えようとししない)”、“坚决地(決心に)”、“深深地(深く)”のような連用修飾節がよく用いられる。

また、cclにおける“爱着”の例からランダムに100例を抽選して考察した結果、その中の61例には連用修飾節が出現する。13例の“喜欢着”の例中、11例で“喜欢着”の前に、連用修飾節があった。下記の例文を見てみよう。

- (26) a 他深情地爱着这里的一草一木，一山一水。(ccl)
(彼はここの山、川、草、木など、すべてを深く愛している。)
b ?他深情地爱这里的一草一木，一山一水。
c 他爱这里的一草一木，一山一水。
(彼はここの山、川、草、木など、すべてを愛している。)

- (27) a 她死心塌地地爱着孤儿出身、比她小几岁的庆生。(ccl)
 (彼女は自分より若くて、両親をなくした慶生を一途に愛している。)
 b ?她死心塌地地爱孤儿出身、比她小几岁的庆生。
 c 她爱孤儿出身、比她小几岁的庆生。
 (彼女は自分より若くて、両親をなくした慶生を愛している。)
- (28) a 当地孩子朴素而又自然地相信着师长们的教诲。
 (地元の子供たちは純粋で先輩方の教を疑わずに信じている。)
 b ∇¹²当地孩子朴素而又自然地相信师长们的教诲。
 (地元の子供たちは純朴で先輩方の教を疑わずに信じている。)
 c 当地孩子相信师长们的教诲。
 (地元の子供たちは先輩方の教を信じている。)
- (29) a 叶雪清学的是西医，却深深地喜欢着中医。
 (葉雪清は西洋医学を習ったが、漢方医学のほうが好きだ。)
 b ∇¹²叶雪清学的是西医，却深深地喜欢中医。
 c 叶雪清学的是西医，却喜欢中医。
 (葉雪清は西洋医学を習ったが、漢方医学のほうが好きだ。)

(26b)、(27b)、(28b)、(29b)が示すように、もし、(26a)、(27a)、(28a)、(29a)の“V着”をゼロ形態に置き換えると、文は非文になるか、容認度が低い文になる。また、(26c)、(27c)、(28c)、(29c)が示すように、連用修飾節と“着”を削除すると、文が自然になる。つまり、連用修飾節がある場合は、状態動詞2のゼロ形態より“V着”がよく用いられる。

意味的には、例文(26a)～(29a)の“深情地(感情深く)”、“死心塌地地(決心したらどんなことがあっても変えようとしなない)”、“自然地(疑わずに)”、“深深地(深く)”のような連用修飾節は“V着”が表す持続している状態の特徴を描写する。つまり、持続している心理状態の特徴を描写する場合に、“V着”がよく用いられる。

朱継征(2004: 127)は「“V起来”の前の様態描写の成分は述語構造の前に現れ、それを修飾・制限するものである。話者は時間的座標には注目せず、動作の展開過程に的を絞り、動作起動後の、被写体の様態を描写することによって、その起動相を捉えたわけである」と指摘している。“V起来”と同じように考えれば、状態動詞2の“V着”の場合、“V着”の前の連用修飾節は“V着”を修飾・制限するものである。話者(認知主体)は時間的

¹² 本稿の“∇”は承認度が低い文の標識とする。

座標には注目せず、状態の展開過程に的を絞り、持続的な心理状態を描写することによって、その持続的な状態を捉えたわけである。

状態動詞3

ccl で調べた結果、“觉得(と思う)”、“认为(と思う)”、“以为(と思う)”が“着”と共起できる例文は見当たらなかった。王学群(2007: 38)は、“觉得(思う)”、“认为(と思う)”、“以为(と思う)”のような動詞は常に思惟活動の内容を表すためか、“V 着”を持っていないと指摘している。しかしながら、思惟活動の内容を表すことが“着”と共起できない理由かどうかは再考する余地があると考えられる。例文(30)を見てみよう。

- (30) a 我认为他是个好人。
(彼はいい人だと思う)。
b 他是个好人。
(彼はいい人である。)
c ?我认为着他是个好人。

例文(30b)が示すように、“我认为(私は～と思う)”を削除しても、「彼はいい人だ」という見方或いは判断が成り立つ。つまり、“我认为(私は～と思う)”はただ後ろの見方と判断を導くと考えられる。また、“认为(と思う)”が導く内容の“他是个好人(彼はいい人だ。)”は思惟活動より、認知主体の見方、判断、態度と認識したほうが相応しいと考えられる。

李玲(2014: 9-11)は“觉得(と思う)”、“认为(と思う)”、“以为(と思う)”が主観の認識を表す動詞と論述している。“觉得(と思う)”が主観の認識を表す場合、「確信度が低い」という意味特徴を持つ。そのため、“觉得(と思う)”が用いられると、談話中の対立や矛盾がある程度避けられ、認知主体の見方を相手が受け取りやすくなる。“认为(と思う)”が表す見方と判断は分析や理解することを通じて、確信を抱くものである。認知主体の見方を相手に強要するニュアンスも含意されている。“以为(と思う)”はただ単に認知主体の個人的な見方を表す。また、例文(31)が示すように、事実と相反している認識内容を表す場合に、“以为(と思う)”がよく用いられる。

- (31) 我以为再也见不到她了，没想到第二天她又出现在了北海公园。(ccl)
(私はもう彼女に会えないと思ったが、翌日彼女は北海公園に現れた。)

王学群(2007: 38)と李玲(2014: 9-11)の研究を踏まえ、本稿は“觉得(と思う)”、“认为(と思う)”、“以为(と思う)”は認知主体の見方、判断、態度を導く意味を持っていると考え

る。では、なぜこれらの動詞は“着”と共起できないのであろうか。

“觉得(と思う)”、“认为(と思う)”、“以为(と思う)”の語の構成を見てみよう。“觉得(と思う)”は“觉”と“得”、“认为(と思う)”は“认”と“为”、“以为(と思う)”は“以”と“为”である。孫英傑(2006: 65)は“得”を結果複合動詞の結果補語として扱うことができると述べている。三つの動詞は動詞の“觉(感じる)”、“认(見分ける)”、“以(とす)”と結果補語の“得”、“为”を組み合わせた結果複合動詞として扱うことができると考えられる。戴耀晶(1991: 96)は“着”は動作結果を表す語と共起できないと述べている。“觉得(と思う)”、“认为(と思う)”、“以为(と思う)”は結果の意味を表す結果複合動詞であるため、“着”と共起できない。

また、結果複合動詞として、“觉得(と思う)”、“认为(と思う)”、“以为(と思う)”をスキミングの認知プロセスで認知すると、点としてしか捉えることができない。これらの動詞が“着”と共起できないことは“着”が「線状視点」であることを証明している。

状態動詞 4

ccl で調べた結果、状態動詞の“站(立つ)”、“坐(座る)”、“躺(横になる)”、“趴(うつ伏せになる)”は“着”とよく共起できることがわかった。意味的には、状態動詞の“站(立つ)”、“坐(座る)”、“躺(横になる)”、“趴(うつ伏せになる)”は主体の姿勢変化を表す。本稿は孫英傑(2006)に従い、進行を表すマーカー“正在”と共起できないため、これらの動詞を状態動詞に分類する。

王学群(2007: 21)は“坐(座る)”グループは瞬間的であり、動作・変化という二側面を持つ動詞グループであり、「付着」という共通の意味特徴を持っていると指摘している。荒川清秀(2015: 109)は日本語のタツ、スワル…の動詞は変化や過程に重点を置く動詞であるが、中国語の“站(立つ)”類は変化や過程よりも状態(“站(立つ)”なら立ッテイルという状態)を表すのがその基本的な意味であると指摘している。確かに、われわれの認知では、一般的に、“坐(座る)”グループが表す「腰掛ける」、「立ち上がる」の動作が瞬間的で、これらの動作が終わってからの状態は時間軸に長い幅を持っていると認識される。もしスキミングの認知プロセスで“坐(座る)”グループが表す内部内定を認知すれば、下記の図のようになる。

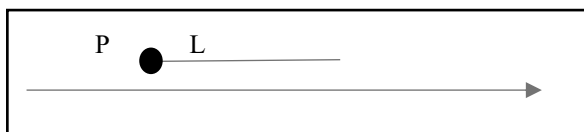


図2 “坐(座る)”グループの内部過程


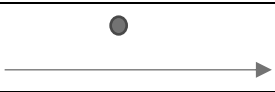
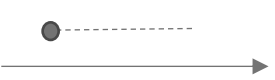
実線の矢印は時間軸を示すものとする。四角の枠の中は動詞に関わる全体の事態(動作・作用が始まる前から終わった後)を表すものとする。点 p は“坐(座る)”グループが表す瞬間的な動作を表すものとする。L は瞬間的な動作が終わってからの状態を表すものとする。

図 2 が示すように、“坐(座る)”グループの内部過程は瞬間的な動作とその動作が終わってからの状態を示す。本稿は王学群(2007: 21)と荒川清秀(2015: 109)を参考に、“坐(座る)”グループを瞬間後動詞と呼ぶ。

王学群(2007: 21)は“坐(座る)”グループの“V 着”は変化の結果の継続を常に表していると指摘している。つまり、認知主体は“着”という認知視点が図 2 の“L”の部分を知ることができると考えられる。この意味は、“坐(座る)”グループと“着”がよく共起できることは“着”の「線状視点」を証明している。

以上述べてきたことから、それぞれの状態動詞を考察した結果として、各種類の内部過程が時間軸上に表示される図と“着”との共起関係を下記のようにまとめる。

[表 3] 本稿における状態動詞の各種類の内部過程と“着”との共起関係

種類	例	内部過程が表示される図	“着”との共起関係
状態動詞 1	等于(等しい)、称(呼ぶ)、号称(誇称する)、姓(…を苗字とする)、像(似ている)、属于(属する)	時間軸上に表示できない	×
状態動詞 2	爱(愛する)、相信(信じる)、喜欢(好きだ)、高兴(嬉しい)、希望(希望する)、恨(うらむ)、悲伤(悲しむ)、尊重(尊重する)、感谢(感謝する)、失望(がっかりする)		○
状態動詞 3	觉得(と思う)、认为(と思う)、以为(と思う)		×
状態動詞 4	站(立つ)、坐(座る)、躺(横になる)、趴(うつ伏せになる)		○

2.2. 活動動詞

前節では、孫英傑(2006)の動詞分類を踏まえ、状態動詞を再分類し、各種類の動詞と“着”との共起関係を考察した。

孫英傑(2006: 52)は“说(話す)”、“写(書く)”、“敲(叩く)”、“喝(飲む)”、“考虑(考える)”のように、「+動態」と「-結果」の意味特徴を持っている動詞を活動動詞と定義している。本節は孫英傑(2006)をもとに、活動動詞を考察し、活動動詞と“着”の共起関係を分析した上で、“着”の特徴を検証する。

まず、孫英傑(2006: 52)を参考に、活動動詞を下記のように分類する。また分類した活動動詞をそれぞれ考察する。

活動動詞 1: 吃(食べる)、说(言う)、喝(飲む)、跑(走る)、炒(いためる)

活動動詞 2: 写(書く)、画(描く)、盖(建てる)、穿(着る)、戴(被る)、挂(かける)、摆(並べる)、貼(貼る)

活動動詞 3: 敲(叩く)、爆炸(爆発する)、閃(煌めく)

活動動詞 4: 思考(考える)、考虑(考える)、想(考える)

活動動詞 1

ccl で調べた結果、これらの動詞が“着”とよく共起している。これらの動詞は典型的な活動動詞で、「+動態」の意味特徴が際立っている。また、動作の始点、持続している過程、終点もはっきり捉えられる。時間軸上に、これらの動詞の内部過程を表示すると、下記の図のようになる。

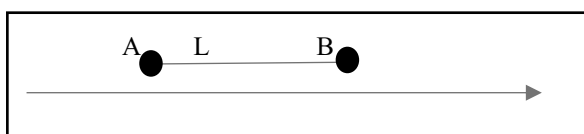


図 3 吃(食べる)グループの内部過程

図 3 における実線の矢印と四角の枠が示す内容は図 2 と同様である。点 A、B は動作の始点と終点を表すものとする。L は持続している過程を表す。

王学群(2007: 17)はこれらのグループの“V 着”は動作の継続のみを表すと指摘している。つまり、認知主体が“着”という認知視点からこれらの動詞の内部過程を考察すれば、図 3 の点 A と点 B の間の部分を捉えていると考えられる。

活動動詞 2

荒川清秀(2015)によると、“着”との相性が一番いい動詞は活動動詞 2 である。意味的には、これらの動詞はある動作を行うことによって、あるものをある場所に付着させる意味が含意されている。朱德熙(1990: 11)は活動動詞 2 の共通の意味特徴を「付着」としている。

つまり、この動作が終わっても必ずあるものがどこかに付着している。このグループの中で、“写(書く)”、“画(描く)”、“盖(建てる)”はある動作を行うことによって、あるものが産出されて、ある場所に付着している意味を表す。“穿(着る)”、“戴(被る)”、“挂(かける)”、“摆(並べる)”、“貼(貼る)”はただ単に、すでに存在しているものをある場所に付着させる意味を表す。

“写(書く)”、“画(描く)”、“盖(建てる)”であっても、“穿(着る)”、“戴(被る)”、“挂(かける)”、“摆(並べる)”、“貼(貼る)”であっても、これらの動詞の内部過程の始点、終点、持続している過程もはっきり捉えられる。時間軸上に、これらの動詞の内部過程を表示すると、下記の図のようになる。

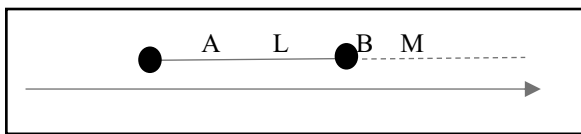


図4 “写(書く)”グループの内部過程

図4における実線の矢印、四角の枠、点A、Bが示す内容は図3と同様である。破線Mが表すのは動作が終わって、産出されたものがある場所に付着している状態を表す。

“写(書く)”グループの“V着”例文を見てみよう。

- (32) 他在黑板上一笔一画地写着自己的名字。
(彼は黒板に自分の名前をきちんと書いている。)
- (33) 黑板上写着他的名字。
(黒板に彼の名前が書いてある。)

例文(32)では、“写着”は認知主体が「書く」動作を行っていることを示す。例文(33)の“写着”は「書く」動作がもう終わって、名前が黒板に書いてある状態を示している。つまり、認知主体が“着”という認知視点から“写(書く)”グループの内部過程を捉えたのは図4の線Lと線Mであると考えられる。

活動動詞3

左思民(2009: 74)は“敲(叩く)”、“爆炸(爆発する)”、“閃(煌めく)”のような動詞は、それが表す動作・作用が行われる時間の幅が短すぎるため、「瞬間活動動詞」と呼んでいる。

これらの動詞の内部過程は時間軸上においては点で表示される。しかし、例文(34)、(35)

が示すように、動作主が瞬間的行為を反復して行う場合、もしくは複数の主体が、それぞれ瞬間的な事象を発生させ、それらが時間的に連続発生する場合には、一つの連続した持続的プロセスとして認知できる。

(34) 楼上的小朋友在不停地敲着地板。(ccl)
(上に住んでいる子供はずっと床を叩きつづけている。)

(35) 炸弹一颗一颗地爆炸着。(ccl)
(爆弾が一発また一発と爆発している。)

つまり、動作主が瞬間的行為を反復して行う場合、もしくは複数の主体が、それぞれ瞬間的な事象を発生させ、それらが時間的に連続発生する場合に、事態を時間軸上に表示すると、いくつかの点として捉えていた断続的な動作・変化から線になっている。この場合には、“敲(叩く)”、“爆炸(爆発する)”、“閃(煌めく)”は“着”と共起できる。

活動動詞 4

ccl で調べた結果、心理状態を表す動詞より、思考(思考する)、想(考える)、考慮(考える)、反思(反省する)、猶豫(考える)のような動詞は“着”とよく共起する。

(36) “嗯”，横渡哼了一声，默默地思考起来。(ccl)
(横渡は「うん」と言った後、静かに考えはじめた。)

(37) 我正在考虑我要不要继续读博。
(私は博士後期課程を続けるかどうかを考えている。)

(38) 我思考过这个问题。
(この問題を考えたことがある。)

(39) 整天考虑着将会怎样结束自己的一生。(ccl)
(人生を終わらせる方法を一日中考えている。)

(40) 中共中央认真考虑了斯大林的建议。(ccl)
(CPC 中央委員会は、スターリンの提案を真剣に検討しました。)

例文(36)～(40)が示すように、活動動詞 4 はアスペクトマーカの“起来”、“正在”、“着”、“了”、“过”と共起できる。前の三種類の活動動詞と比べれば、活動動詞 4 が表す動作の動態ははっきり捉えられないが、孫英傑(2006: 46)に従い、“正在”と共起できるため、これらの動詞を活動動詞に分類する。

活動動詞 4 が表すのは頭の中の動きであるが、主体はこの活動がいつから始まったか、いつ終わるか、持続しているかどうかをはっきり捉えることができると考えられる。つまり、時間軸上に状態動詞 4 の内部過程を表示すると、活動動詞の“吃(食べる)”と同じように、始点、持続している過程、終点が全て表示される図になる。この点に関して、王学群(2007: 32)は活動動詞 4 は最も動作動詞に近い存在であると指摘している。

王学群(2007: 39)は活動動詞 4 が“着”と共起し、思考活動の継続を表すと指摘している。つまり、“着”という認知視点から、活動動詞 4 の内部過程を考察し、捉えられたのは始点と終点の間の部分である。

以上述べてきたことから、それぞれの活動動詞を考察した結果、各種類の内部過程が時間軸上に表示される図と“着”と共起関係を下記のようにまとめる。

[表 4] 本稿における活動動詞の各種類の内部過程と“着”との共起関係

種類	例	内部過程が表示される図	“着”と共起関係
活動動詞 1	吃(食べる)、说(言う)、喝(飲む)、跑(走る)、炒(いためる)		○
活動動詞 2	写(書く)、画(描く)、盖(建てる)、穿(着る)、戴(被る)、挂(かける)、摆(並べる)、贴(貼る)		○
活動動詞 3	敲(叩く)、爆炸(爆発する)、閃(煌めく)		△ ¹³
活動動詞 4	思考(考える)、考虑(考える)、想(考える)		○

2.3. 結果動詞

孫英傑(2006)は「結果」を表す“义素¹⁴”を持つ動詞を結果動詞と定義している。結果動詞の例として、“断(切れる)”、“裂(割れる)”、“破(破れる)”、“碎(碎ける)”、“倒(倒

¹³ 主体が複数の場合或いは、動作が繰り返される場合では活動動詞 3 が“着”と共起できる。

れる)”、“丢(なくす)”、“忘(忘れる)”、“死(死ぬ)”、“赢(勝つ)”、“输(負ける)”、“毕业(卒業する)”が挙げられている。

王学群(2007: 24)はこれらの動詞をものの変化を表す変化動詞と分類している。郭銳(1993: 416)はこれらの動詞の内部過程が“点结构(点構造動詞)”であり、点として捉えられ、“着”と共起できないと指摘している。3.2節で指摘したように、馬慶株(1981)は“死”タイプ(“死(死ぬ)”、“熄(燃える)”…)が“着”と共起できないため、「非継続動詞(Va)」に分類している。つまり、一般的に、時間軸上に結果動詞の内部過程を捉えると、点しか捉えられず、“着”と共起できないと認知されている。しかし、ccl と bcc¹⁵で調べた結果、これらの動詞の中に、下記の(41)~(43)が示すように、“着”と共起できる動詞も存在している。

(41) 在老街一社区办事处门口，死着三个人，一名妇女，两名男子。 (=11)

(古い町の団地事務所の前、三人が死んでいる。女一人、男二人。)

(42) 小侯返身回营时，看见皑皑白雪堆里倒着一位年逾8旬的老人。(=12)

(候ちゃんがキャンプ地に戻った時、八十代の老人が真っ白な雪だまりの中に倒れているのが見えた。)

(43) 门外过道上丢着一只沾满血迹的花布拖鞋。

(外の廊下に血まみれの色とりどりのスリッパが捨てられている。)

本節は“着”と共起できる例が存在するかどうかを基準にして孫英傑(2006)における結果動詞を下記のように再分類し、結果動詞と“着”が共起できる“反例”を考察し、“着”の線状過程を検証する。

結果動詞 1: “倒(倒れる)”、“死(死ぬ)”、“丢(なくす)”、“裂(割れる)”、“断(切れる)”

結果動詞 2: “忘(忘れる)”、“赢(勝つ)”、“输(負ける)”、“毕业(卒業する)”

¹⁴ “义素”は“語彙成分”とも呼ばれる。たとえば、“哥哥(兄さん)”の“語彙成分”に、“同胞(同じ父母をもつ)”、“男性(男性)”、“年长(年上)”がある。

¹⁵ 3.3.3節の結果動詞と3.3.4節の完成動詞の“V着”例が少ない。データの確率を確かめるために、ccl と bcc の二つのコーパスで例文を考察するようになった。

ccl で調べた結果、“倒(倒れる)”、“死(死ぬ)”、“丟(なくす)”、“断(切できない)”、“裂(割れる)”、“断(切れる)”の動詞は“着”と共起できる。“贏(勝つ)”、“輸(負ける)”、“毕业(卒業する)”のような結果動詞は“着”と共起できない。

一般的に、“死(死ぬ)”と“倒(倒れる)”の変化は瞬間的であり、それらの変化を捉えることができないと認知している。例文(41)では、「主体が死ぬ」という瞬間的な変化が捉えられないが、この変化の結果がずっと継続し、捉えられることができる。例文(41)と同様、例文(42)、(43)では、「主体が倒れる」、「主体が捨てられる」という瞬間的な変化が捉えられにくい、倒れた結果と捨てられた結果が継続していることが捉えられる。つまり、これらの結果動詞が表す意味は「結果」の意味だけではなく、「結果」が継続している状態の意味も捉えることができると考えられる。仮に、“倒(倒れる)”、“死(死ぬ)”、“丟(なくす)”、“断(切れる)”、“裂(割れる)”の内部過程を時間軸上に表すと、下記の図のようになる。

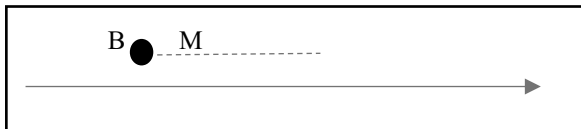


図5 “倒(倒れる)”グループの内部過程

実線の矢印、四角の枠が示す内容は図3、4と同様である。点Bは瞬間に起こる変化を示すものとする。破線Mが表すのは変化が終わって、変化の結果が継続している状態を表すものとする。

これらの動詞の内部過程は2.1節の状態動詞4の“坐”グループと同様であり、瞬間後状態動詞とも呼ばれる。しかし、“坐”グループと異なり、“倒(倒れる)”、“死(死ぬ)”、“丟(なくす)”が表す「状態義」¹⁶は「結果義」よりずっと弱い。理由としては、“倒(倒れる)”、“死(死ぬ)”、“丟(なくす)”は“推倒(押し倒す)”、“打死(打ち殺す)”、“弄丟(なくす)”のように、活動動詞の後ろに後続して、結果補語として用いられるが、“坐”グループは結果補語として使うことができないためである。

また、結果動詞1が表す変化が起きて、変化の主体或いは変化によって出産されたものがその変化によって、どこかに存在していることが捉えられる。つまり、結果動詞1が表す意味に「付着」の意味も含意されている。その一方で、結果動詞2は結果動詞1と異なり、変化が発生しても、その変化の結果の具体的な表現形式が捉えられないため、結果が継続している状態を表すことができないと考えられる。そのため、時間軸上に、“贏(勝つ)”、“輸(負ける)”、“毕业(卒業する)”を表示すれば、点でしか捉えられないと考えられる。

¹⁶ 変化が起きてからの結果が継続している状態を表すことを“倒”類動詞の「状態義」とする。変化が起きてある結果が出ることを表すことを“倒”類動詞の「結果義」とする

以上述べてきたことから、結果動詞の二種類を考察した結果、各種類の内部過程が時間軸上に表示される図と“着”と共起関係を下記のようにまとめる。

[表5] 本稿における結果動詞の各種類の内部過程と“着”との共起関係

種類	例	内部過程が表示される図	“着”との共起関係
結果動詞 1	“倒(倒れる)”、“死(死ぬ)”、“丢(なくす)”、“裂(割れる)”、“断(切れる)”		○
結果動詞 2	“忘(忘れる)”、“赢(勝負)”、“输(負ける)”、“毕业(卒業する)”		×

2.4. 完成動詞

孫英傑(2006: 65)は前節の状態動詞、活動動詞、結果動詞を中国語の動詞の基本動詞として扱い、“打败(負かす)”、“拿来(取ってくる)”、“听到(聞こえる)”、“抓住(捕まえる)”のような結果複合動詞¹⁷を完成動詞と呼んでいる。前項動詞は動作或いは原因を表し、後項動詞は結果を表す補語として扱われる。また、後項動詞の種類により、完成動詞を“V+結果補語”、“V+方向補語”、“V+到”、“V+住/中/掉”の四種類に分類している。

陶振偉(2005: 92)は“到”の意味のプロトタイプが到達する意味であり、メタファーの意味拡張により、動詞に後続され、結果を表す補語として使われることもできると指摘している。北京大学中国語言文学系現代漢語教研室(2004: 298)は動語の表す動作行為の結果を表すものを結果補語と定義し、“住”、“掉”、“见”、“死”、“倒”、“丢”などを取り上げている。つまり、孫英傑(2006: 65)に取り上げられた“到”、“住”、“中”、“掉”は動詞に後続され、結果補語として扱うことができる。本稿は孫英傑(2006: 65)の分類をもとに、完成動詞を下記のように分類する。

完成動詞 1: 打败(負かす)、打死(打ち殺す)、哭湿(涙で濡れる)、洗干净(きれいにする)、压倒(圧倒する)、看到(見える)、听到(聞こえる)、收到(受け取る)、抓住(捕まえる)、拦住(さえぎってとめる)、吃掉(食べてしまう)、卖掉(売ってしまう)、看中(気に入る)、猜中(当てる)

¹⁷ 結果複合動詞(Resultative Verbal Compounds)は二つの動詞から構成されている。前項動詞は動作と原因を表す活動動詞であり、後項動詞は結果を表す補語として扱われる。(孫英傑(2006: 65))

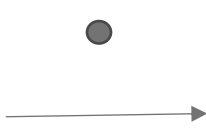
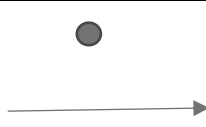
完成動詞 2: 拿出(出す)、请来(誘ってきてもらう)、拖下去(引っ張っていく)、放上带过来(連れてくる)

ccl と bcc で調べた結果、完成動詞 1 と完成動詞 2 は“着”と共起できない。

完成動詞 1 の構成は「V+結果補語」である。前項動詞は動作或いは原因を表し、後項動詞は結果を表す結果補語である。朱繼征(2000: 23)は“V+結果補語”を「結果相」の文法形式と考え、「結果相」は時間的幅がないため、「点」の形で表すことができると説明している。つまり、時間軸上に完成動詞 1 の内部過程を表示すると、「点」である。完成動詞 2 の構成は「V+方向補語」である。沈家煊(1995: 372)は「V+結果補語」構造や「V+方向補語」構造も完結の意味を持ち、“V了”と同様に、内在的で自発的な終了点を持つと指摘している。「V+結果補語」と「V+方向補語」の内部過程を時間軸上に捉えるなら「点」でしか捉えられないと考える。

以上述べてきたことから、完成動詞の二種類を考察した結果、各種類の内部過程が時間軸上に表示される図と“着”と共起関係を下記のようにまとめる。

[表 6] 本稿における完成動詞の各種類の内部過程と“着”との共起関係

種類	例	内部過程が表示される図	“着”との共起関係
完成動詞 1	打败(負かす)、打死(打ち殺す)、哭湿(涙で濡れる)、看到(見える)抓住(捕まえる)、拦住(さえぎってとめる)、吃掉(食べてしまう)、猜中(当てる)		×
完成動詞 2	拿出(出す)、请来(誘ってきてもらう)、拖下去(引っ張っていく)、带过来(連れてくる)		×

本節は孫英傑(2006)の動詞分類をもとに、状態動詞、活動動詞、結果動詞と完成動詞をそれぞれ考察し、各種類の動詞と“着”との共起関係をコーパスで調べ、また各種類の動詞の内部過程を下記のように時間軸に表示した。

[表7] 本稿による動詞の各種類の内部過程と“着”との共起関係

種類	例	内部過程が表示される図	“着”との共起関係
状態動詞1	等于(等しい)、称(呼ぶ)、号称(誇称する)、姓(…を苗字とする)、像(似ている)、属于(属する)	時間軸上に表示できない	×
状態動詞2	爱(愛する)、相信(信じる)、喜欢(好きだ)、高兴(嬉しい)、尊重(尊重する)、感谢(感謝する)、失望(がっかりする)		○
状態動詞3	觉得(と思う)、认为(と思う)、以为(と思う)		×
状態動詞4	站(立つ)、坐(座る)、躺(横になる)、趴(うつ伏せになる)		○
活動動詞1	吃(食べる)、说(言う)、喝(飲む)、跑(走る)、炒(いためる)		○
活動動詞2	写(書く)、画(描く)、盖(建てる)、穿(着る)、戴(被る)、挂(かける)、摆(並べる)、贴(貼る)		○
活動動詞3	敲(叩く)、爆炸(爆発する)、閃(煌めく)		△
活動動詞4	思考(考える)、考虑(考える)、想(思う)		○
結果動詞1	死(死ぬ)、倒(倒れる)、丢(なくす)		○
結果動詞2	赢(勝つ)、输(負ける)、毕业(卒業する)		×
完成動詞1	看到(見える)、打败(負かす)、打死(打ち殺す)、抓住(捕まえる)、吃掉(食べてしまう)、猜中(当てる)		×
完成動詞2	拿出(出す)、请来(誘ってきてもらう)、拖下去(引っ張っていく)、带		×

	过来(連れてくる)		
--	-----------	--	--

2.5. “着”の「線状視点」に関する検証

前節で各種類の動詞と“着”との共起関係と各種類の動詞の内部過程が時間軸上に表示される図を考察した。表 12 を参考にし、下記の結論を導くことができる。

① “着”と共起できない動詞は状態動詞 1(“姓(…を苗字とする)”)、状態動詞 3(“认为(と思う)”)、結果動詞 2(“毕业(卒業する)”)、完成動詞 1(“看到(見える)”)、完成動詞 2(“拿出(出す)”)である。

② “着”と共起できる動詞は状態動詞 2(“爱(愛する)”)、状態動詞 4(“坐(座る)”)、活動動詞 1(“吃(食べる)”)、活動動詞 2(“写(書く)”、“穿(着る)”)、活動動詞 3(“敲(叩く)”)、“爆炸(爆発する)”)、活動動詞 4(“思考(考える)”)である。

③ “着”と共起できない動詞の内部過程を時間軸上に表示すると、点でしか表示できない、或いは時間軸上に表示できない。

④ 活動動詞 3 の内部過程は時間軸上に点でしか表示できないが、主体が複数の場合或いは、動作が繰り返される場合、いくつかの点から線になり、“着”と共起できるようになる。

⑤ “着”と共起できる動詞の内部過程を時間軸上に表示すると、「線」である。

0 節で“着”は「線状視点」であるという仮説が提出された。具体的に言えば、われわれはスキニングの認知プロセスで“着”という「線状視点」である「窓口」から事態を知覚している。つまり、認知主体は動作・変化のような事態を捉える際に、「線」のような形の「視点」から事態を捉える。

本節は時間軸上に「線」として表示できる動詞が“着”と共起できるという結論を導くことができた。特に、活動動詞 2(“写(書く)”、“穿(着る)”)は動作を表す「線」と動作が終わってからの状態を表す「線」とが両方とも捕らえられるため、“着”とよく共起できる。さらに、「点」で表示される内部過程は主体が複数の場合、或いは動作が繰り返される場合、「線」として捉えられ、動詞が“着”と共起できるようになる。つまり、内部過程が「線」として捉えられる動詞は“着”と共起できる。これらの事実は“着”という「視点」が「線状視点」であり、“着”という「視点」から捉えた“V 着”が「線状過程」であることを示していると考えられる。

3. まとめ

本稿は孫英傑(2006)の動詞分類をもとに、状態動詞、活動動詞、結果動詞と完成動詞の動詞をそれぞれ考察し、それらと“着”との共起関係と、各種類の内部過程が時間軸上に表示される図を分析し、時間軸上において内部過程を「線」として捉えられる動詞が“着”と共起できることを明らかにした。また、また、この結論から、“着”という「視点」が「線状視点」であることが証明できた。また、“着”の「線状視点」から捉えた“V着”が「線状過程」であることもわかった。

例文出典

ccl: 北京大学中国語言語研究センター(略称 ccl: <http://ccl.pku.edu.cn>)

bcc: 北京言語大学大數據与言語教育研究所(略称 bcc: <http://bcc.blcu.edu.cn>)

参考文献

荒川清秀(2015)『動詞を中心にした中国語文法論集』白帝社.

北京大学中国語言文学系現代漢語教研室(2004)『現代中国語総説』(松岡榮志、古川裕監訳),三省堂.

趙元任(1979)《汉语口语语法》(呂叔湘译),商务印书馆.

陳平(1988)<论现代汉语时间系统的三元结构>《中国语文》第6期, pp.401-422.

戴耀晶(1991)<现代汉语表示持续体的“着”的语义分析>《语言教学与研究》,第2期, pp.92-106.

郭銳(1993)<汉语动词的过程结构>《中国语文》第6期 pp.410-219.

平山久雄(1959)「北京語の“着”とその接尾する動詞について」『中国語学』88号,日本中国語研究会, pp.4-6.

工藤真由美(2014)『現代日本語ムード・テンソ・アスペクト論』ひつじ書房.

李玲(2014)<韩国学生汉语表主观认识词语的习得研究>南京师范大学,硕士学位论文.

劉月華(2001)《实用现代汉语语法》(增订本)商务印书馆.

町田健(2004)『ソシユールと言語学—コトバはなぜ通じるのか』講談社.

馬慶株(1981)<时量宾语和动词的类>《中国语文》第2期, pp.86-90.

王学群(2007)『中国語の“V着”に関する研究』白帝社.

劉綺紋(2006)『中国語のアスペクトとモダリティ』大阪大学出版会.

沈家煊(1995)<“有界”与“无界”>《中国语文》第5期, pp.367-380.

孫英傑(2006)<现代汉语系统研究>北京语言大学,博士学位论文.

朱繼征(2000)『中国語の動相』白帝社.

- 朱繼征(2004)「中国語の起動相について—“开始~”と“~起来”の文法的な使い分けと意味的分析を中心に—」『中国語学』251号, pp.114-135.
- 陶振偉(2005)<现代汉语“到”的语义认知考察>《邢台学院学报》第20卷,第4期, pp.90-92.
- 鄧宇陽(2019)<重新探讨行域层面的句末助词“了”的语义及其生成机制>『言語研究第4号』, 新潟大学大学院現代社会文化研究科, pp. 42-54.
- 張文青(2013)「アスペクト助詞“着”の教授法に関する試み」『言語と言語教育—アジア太平洋の声ポリグロシヤ』第24号, pp.112-127.
- Vendler, Zeno.(1967) *Linguistic in Philosophy*. Cornell University Press.
- 王力(1980)《汉语史稿》中华书局.
- 吳春相・余瑞雪(2008)<不/没+VP”的时间意义>《长春师范学院学报》第4期, pp.83-88.
- 山梨正明(2000)『認知言語学原理』くろしお出版.
- 朱德熙(1990)<“在黑板上写字”及其相关句式>《语法从稿》, pp.4-18.
- 左思民(2004)<动词重叠与时量>《汉语时体系统国际研讨会论文集》百家出版社.
- 左思民(2009)<动词的动相分类>《华东师范大学学报(哲学社会科学版)》第1期, pp.74-82.